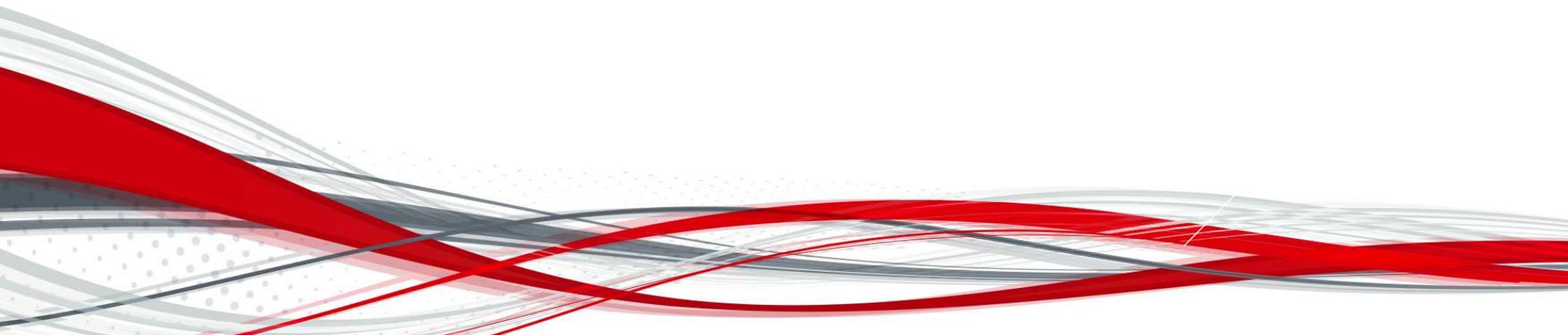


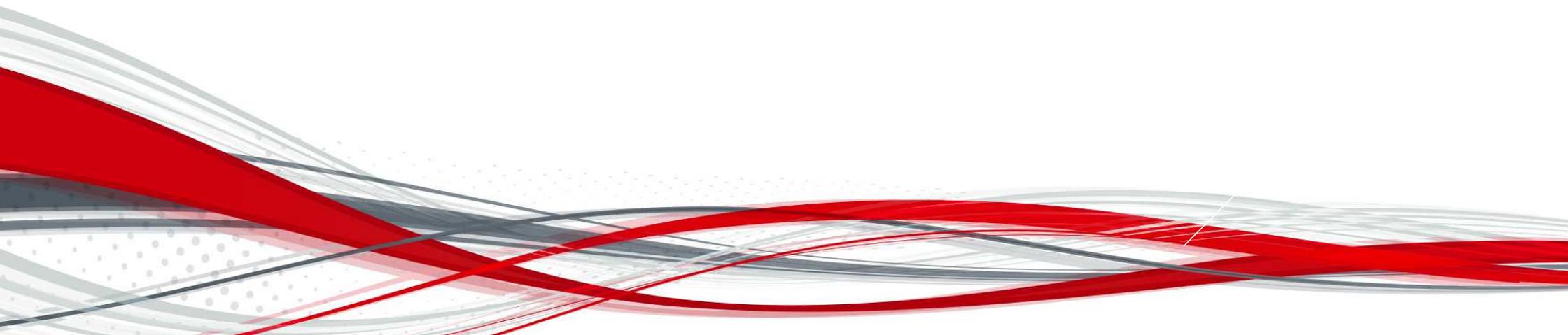
# 2019年度 決算説明会資料



# 目次

1. 会社概要	3
2. 2019年度実績	9
3. 2020年度業績予想	18
4. 今後の成長戦略	20

# 会社概要



# 会社概要

会社名	株式会社 松屋アールアンドディ
設立	1982年8月7日
上場市場	東証マザーズ 証券コード 7317
本社	福井県大野市鋤掛20-1-2
資本金	270百万円（2020年5月13日時点）
代表者	代表取締役社長 後藤 秀隆
事業内容	自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売、 レーザー裁断機の開発・製造・販売、 血圧計腕帯の製造、カーシートカバーの生産 等
従業員数	1,370名（2020年3月末時点）
拠点	海外拠点：3 拠点（中国：上海市・ベトナム：ドンナイ省・ミャンマー：ヤンゴン州） 国内子会社：1 拠点（宮城県：栗原市）



## 事業内容

弊社はミシンメーカーではなく、  
縫製の自動化を行う「縫製自動機事業」と  
新しいビジネスモデルによる「縫製品事業」が主力事業

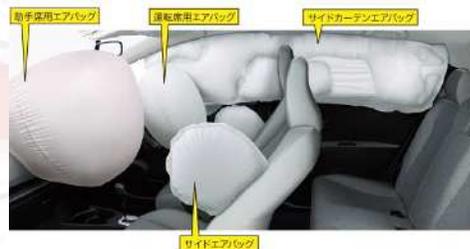
### 縫製品事業

- 各種縫製品の製造

▼ 血圧計腕帯 ▼ カーシート



▼ エアバッグ



### 縫製自動機事業

- 自動車安全装置縫合システムの開発・製造・販売
- レーザー裁断機の開発・製造・販売
- 医療用自動化ラインの開発・製造・販売



# 縫製自動機事業の内容

弊社はミシンメーカーではなく、コンサルティングを起点に、自社開発のハード・ソフトを組み合わせ

人手に頼っている作業をAI搭載ロボットに置き換え、**縫製ラインの自動化**を実現し、作業者を3K作業（きつい・汚い・危険）から解放する企業である。

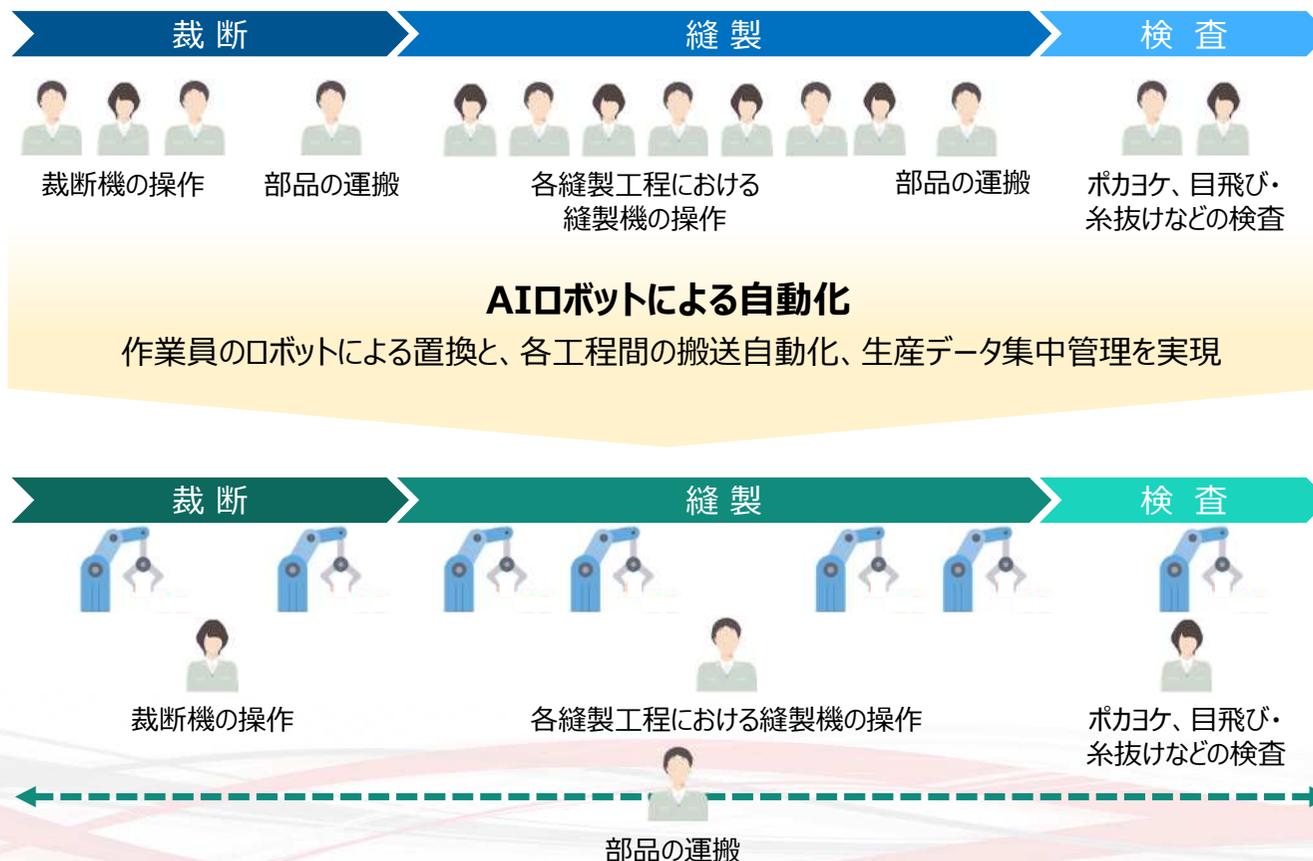
縫製ラインで働く  
現状の人数

約 **14** 名

機械に置き換えて  
人員の削減を図る

目標の人数

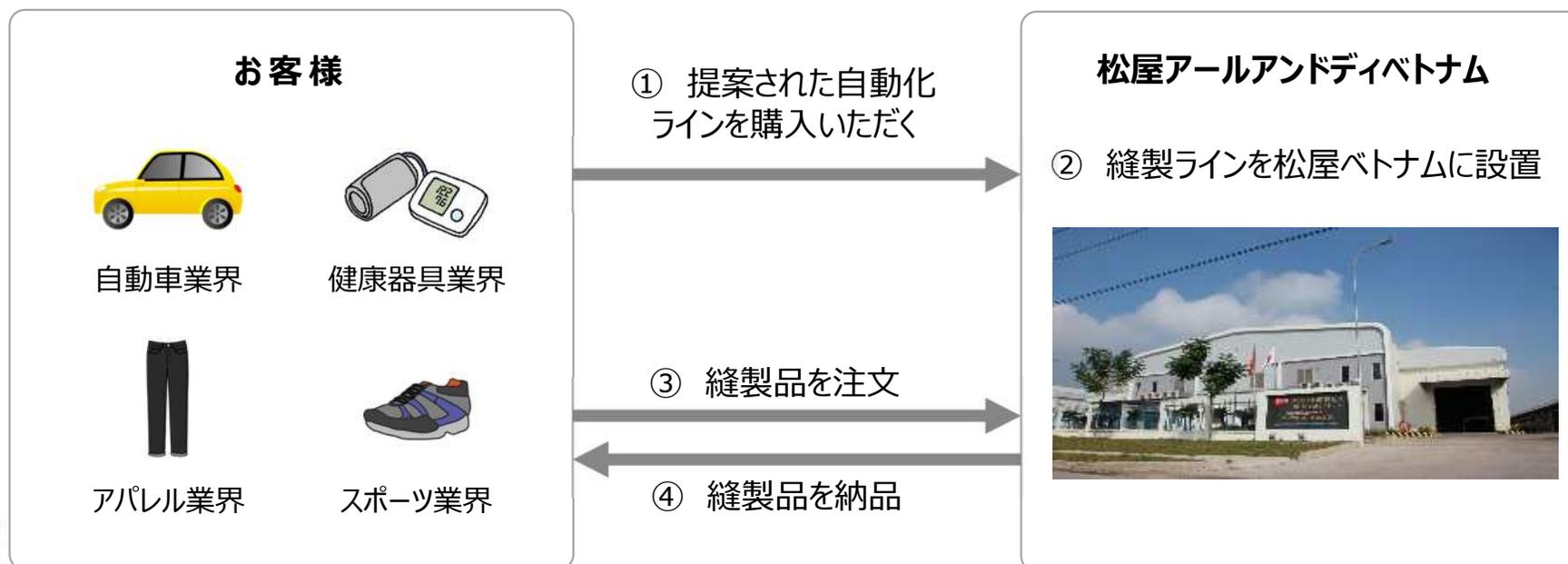
約 **4** 名



# 独自の縫製品事業ビジネスモデル

従来の縫製工場と違って

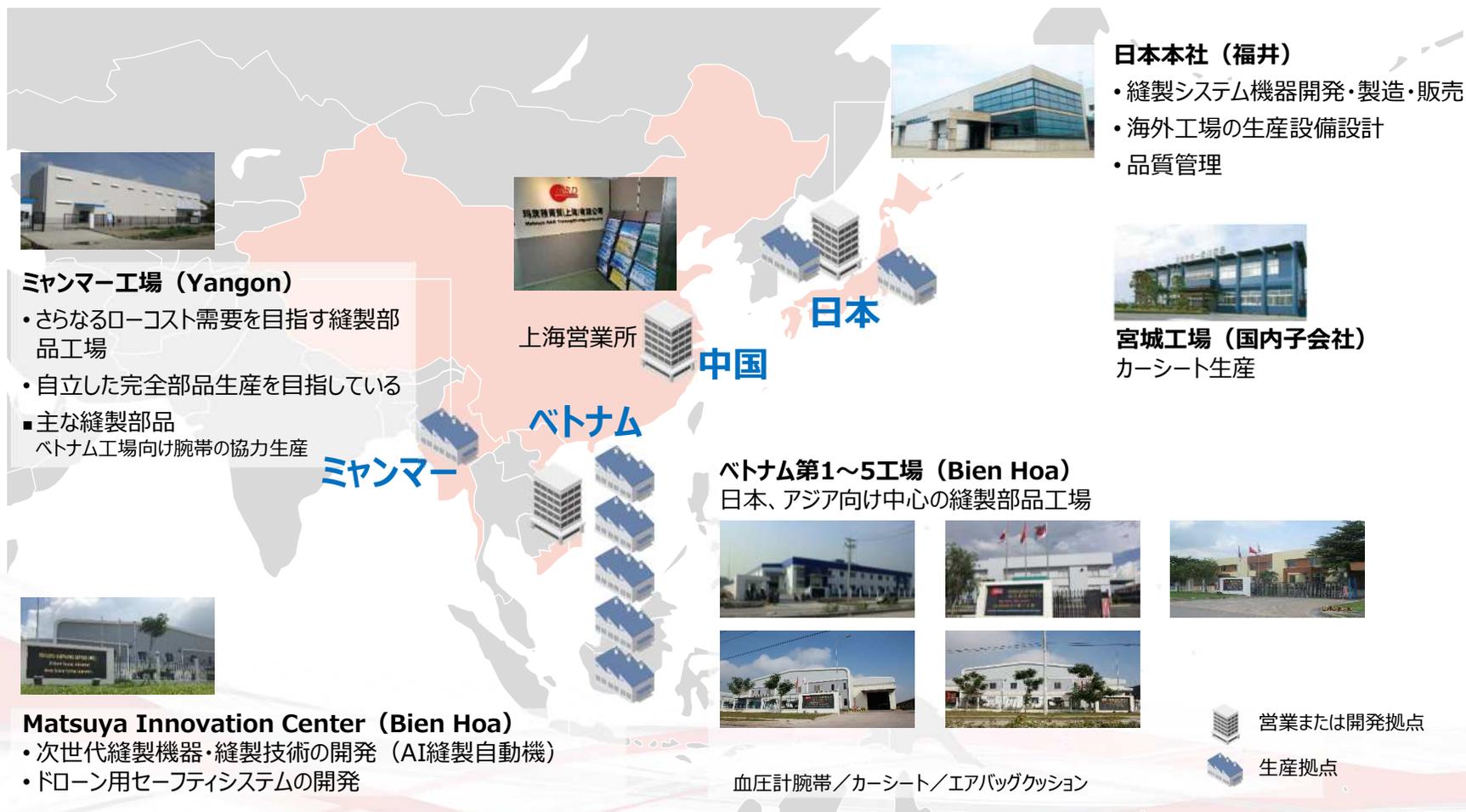
顧客負担で縫製自動機を購入するため、弊社の投資が少なく、急速な事業拡大が可能



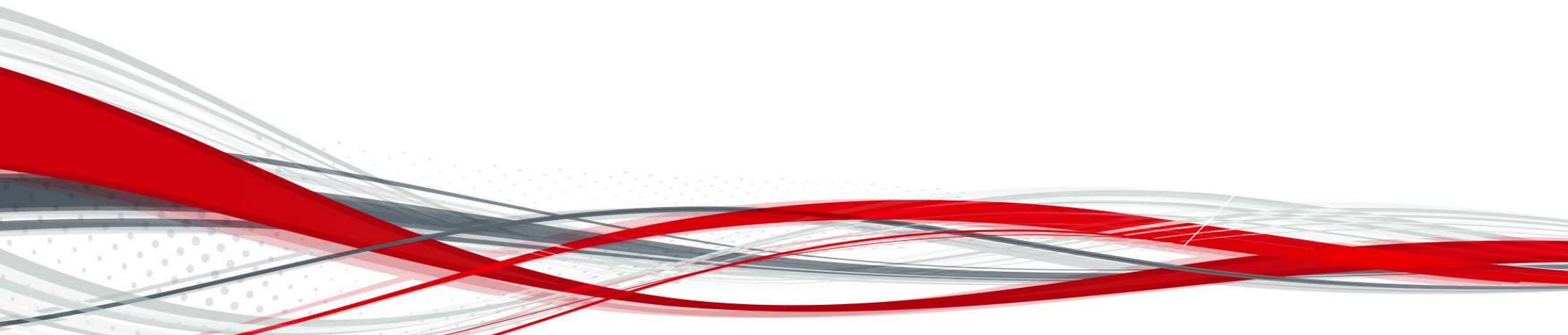
縫製品製造に関するノウハウを蓄積し、  
安定的に高い利益率を確保することが可能

# グローバル生産 & 営業・開発体制

アジアを中心に生産拠点を設け、低コスト生産体制を構築



# 2019年度実績



## 2019年度実績：サマリー

- 営業利益および親会社株主に帰属する当期純利益が上場費用をこなした上で**前期比で約2倍に大幅増益**。
- 売上総利益率は前期比で**1.2ポイント改善**。
- 2019年度においては新型コロナウイルス感染症の影響は当初想定よりは軽微。

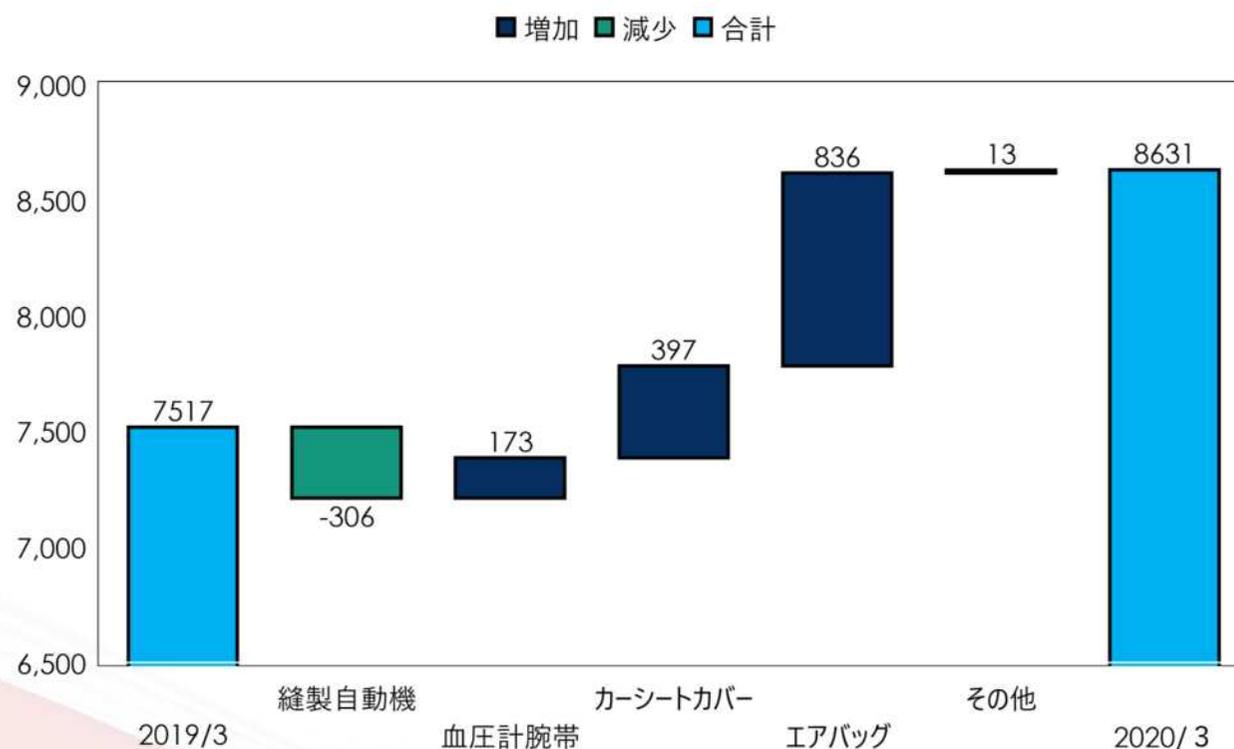
	2019.3 実績 (百万円)	2020.3 見通し (百万円)	2020.3 実績 (百万円)	前期比	見通し比
売上高	7,517	8,140	8,631	114.8%	106.0%
売上総利益	959	1,142	1,207	125.9%	105.7%
売上総利益率	12.8%	14.0%	14.0%	—	—
営業利益	180	331	407	<b>225.5%</b>	<b>123.0%</b>
経常利益	223	293	380	170.1%	129.7%
税金等調整前 当期純利益	222	293	380	170.1%	129.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	113	188	223	<b>197.2%</b>	<b>118.6%</b>
1株当たり当期 純利益(円)	50.53	83.74	99.11	<b>197.2%</b>	<b>118.6%</b>

## 2019年度実績：セグメント別売上高&利益

・縫製品事業において、特に血圧計のセンサー部分となる腕帯において売上増加、生産性向上を図り、利益率が改善したほか、カーシートカバー及びエアバッグの売上が増加し、生産性向上によりセグメント利益も大幅増益となった。事業は米を中心とした貿易摩擦により中国、メキシコでの投資需要が一時的に停滞したことを背景に売上高減少となった。

	2019.3 実績 (百万円)	2020.3 見通し (百万円)	2020.3 実績 (百万円)	前期比	見通し比
<b>売上高</b>	<b>7,517</b>	<b>8,140</b>	<b>8,631</b>	<b>114.8%</b>	<b>+106.0%</b>
縫製自動機事業	1,236	900	875	70.8%	97.2%
縫製品事業	6,342	7,240	7,762	122.4%	107.2%
調整額	△61	—	△7	—	—
<b>セグメント利益</b>	<b>180</b>	<b>331</b>	<b>407</b>	<b>225.3%</b>	<b>+122.6%</b>
縫製自動機事業	8	△114	△115	—	—
縫製品事業	422	654	736	174.4%	112.5%
調整額	△250	△208	△213	—	—

## 2019年度実績：売上高の増減要因



**縫製自動機：868百万円（前期比△306減）**  
前年度はメキシコ向けの全自動ラインなど大口の売上があった反動で減少となるも、大手エアバッグメーカーのヨーロッパ工場向けに8台のエアバッグ用の縫製自動機を納入、そのほか海外メーカーを中心に主にヨーロッパ向けの販売が増加。

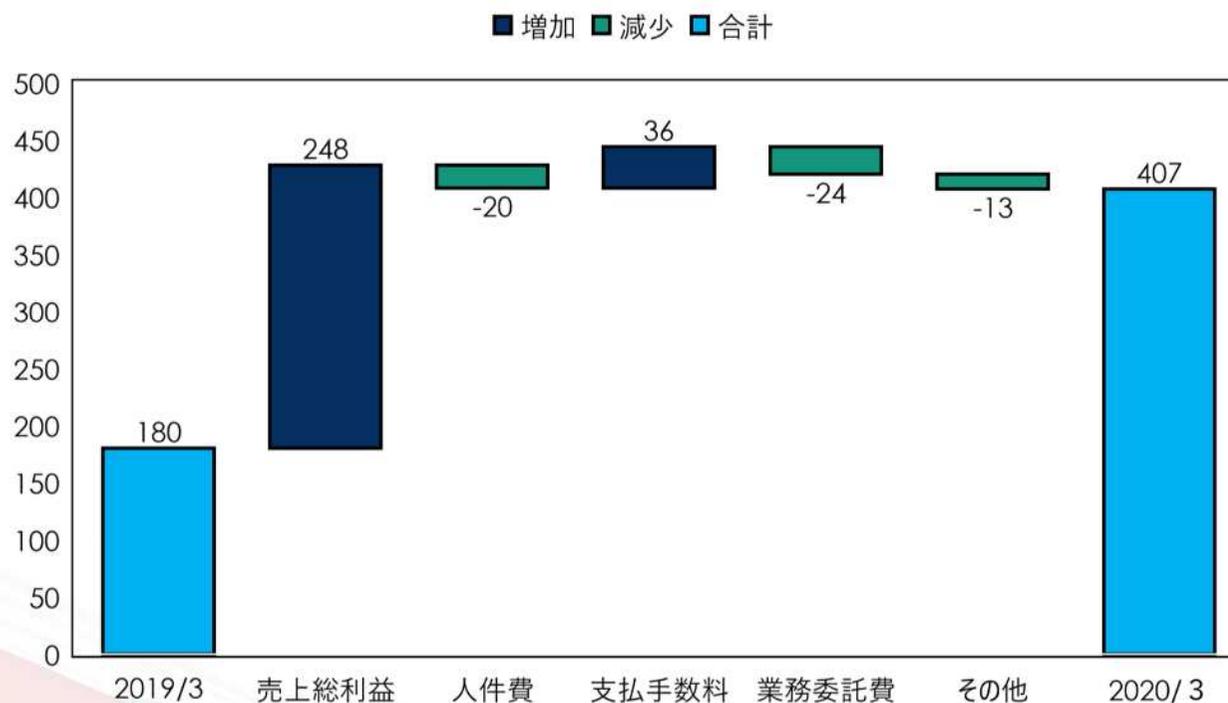
**血圧計腕帯：3,181百万円（前期比+173増）**  
健康志向を背景に順調に受注数量が増加。

**カーシートカバー：3,189百万円（前期比+397増）**  
小型車のほか、海外向けのSUV関連の受注数量が増加した。また、松屋ベトナムにおける製造ラインの見直しにより、生産性向上も図れた。

**エアバッグ：1,307百万円（前期比+836増）**  
当社製縫製自動機による製造ラインが2ラインから5ラインまで増加したことにより、受注数量も増加。

**その他：83百万円（前期比+13増）**  
車載用ストラップの生産量が増加

# 2019年度実績：営業利益の増減



## 売上総利益 (+248)

縫製自動機事業においては、米を中心とした貿易摩擦の影響で売上減少したほか、欧州の大手エアバッグメーカー向けの縫製自動機について、開発費用が多く発生したことから利益減少となった。縫製品事業においては、血圧計腕帯について受注数量が増加したほか、カーシートカバーにおいて前年度利益減少要因となっていた松屋ベトナムにおける小型車のカーシート縫製ラインの立ち上げ費用が解消され、工程見直しを図るなどして生産性が向上したことで増益となった。エアバッグについては生産ラインの増加による受注数量の増加が影響している。

## 人件費 (△20)

当社及び子会社（松屋ベトナム）における管理部門の人員増強による費用増加。

## 支払手数料 (+36)

前年度は松屋ベトナムにおいて工場を増やしたことから、移転に係る引っ越し費用などが発生していたもので、当年度は反動により減少。

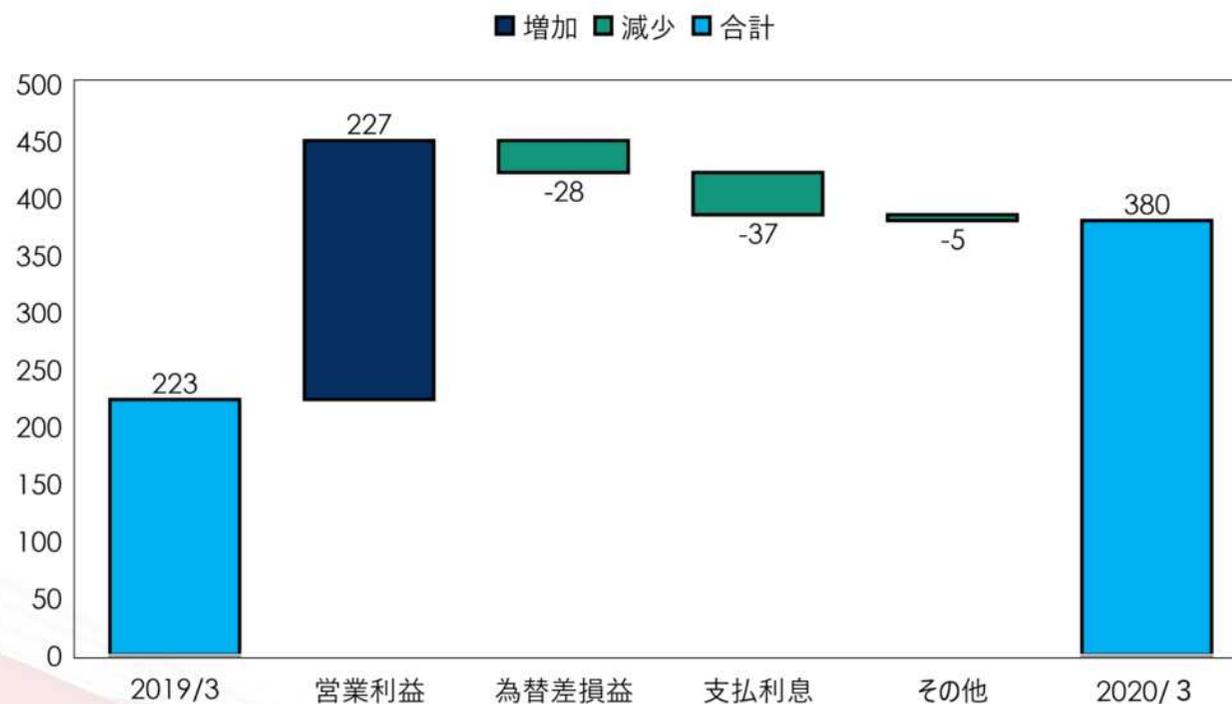
## 業務委託費 (△24)

上場準備によりコンサルタント費用などが増加。

## その他 (△13)

縫製自動機において欧州での販売が増加したことで現地での営業窓口となる代理店への販売手数料増加など。

## 2019年度実績：経常利益の増減



### 為替差益の減少 (△20)

当年度の為替差益は20百万円、主にドル建ての取引が多く、円高傾向になったことが影響。

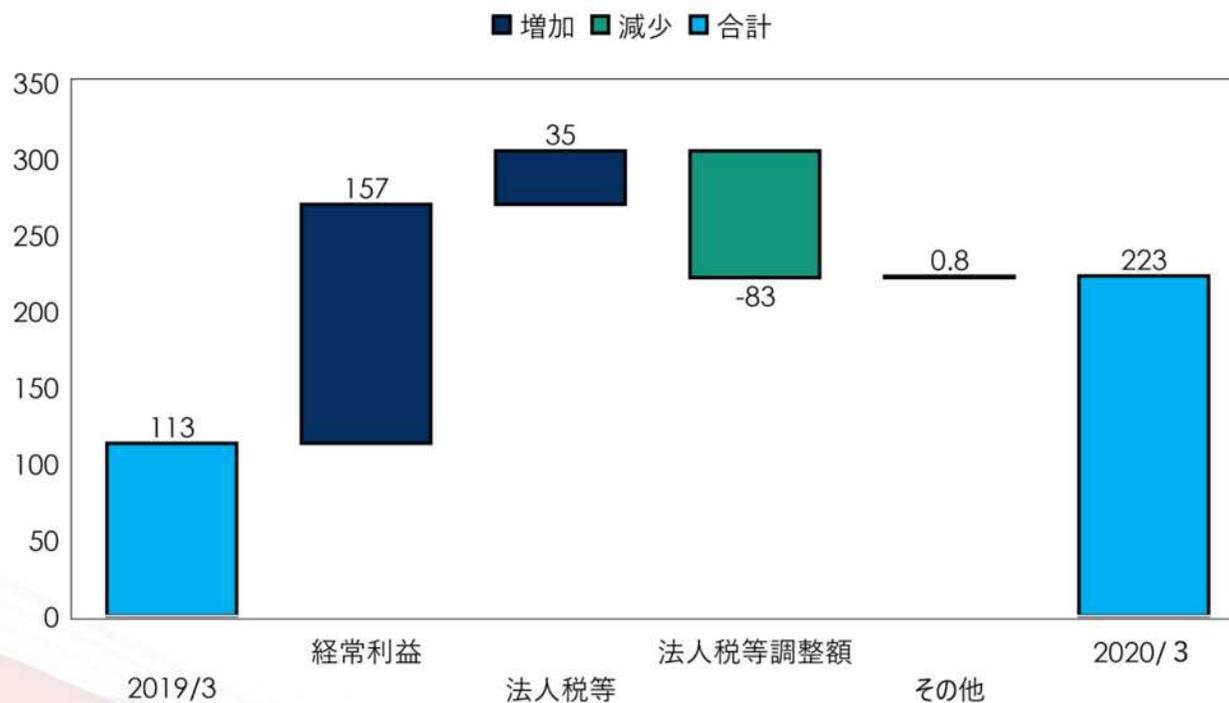
### 支払利息の増加 (△37)

IFRS16号適用により支払利息が30百万円増加。その他、短期借入金増加によるもの。

### その他 (△5)

主に上場関連費用（目論見書印刷費用、上場審査料など）の発生によるもの

# 2019年度実績：親会社株主に帰属する当期純利益の増減



## 法人税等の減少 (+35)

前年度における松屋ベトナムにおける修正申告をしたため法人税等が増加していたが、当年度は発生していない。

## 法人税等調整額の増加 (△83)

当社（松屋R&D）における繰延税金資産の回収可能性について保守的な立場から企業の分類の見直しを行ったもの。

## その他 (+0.8)

前年度における固定資産の売却、除却が発生したことによるもの

## 2019年度実績：連結キャッシュ・フロー計算書

	2019.3 実績 (百万円)	2020.3 実績 (百万円)	前期増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8	219	+211
投資活動によるキャッシュ・フロー	△119	△41	+78
財務活動によるキャッシュ・フロー	330	35	△295
現金及び現金同等物の換算差額	△15	△3	+12
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	203	210	+7

	2019.3 実績 (百万円)	2020.3 実績 (百万円)	前期増減 (百万円)
減価償却費	89	205	+116
設備投資	△178	△41	+137

**営業活動によるキャッシュ・フロー**  
 利益増加に加え、在庫水準の適正化を行い、キャッシュ・フローが良化。

**投資活動によるキャッシュ・フロー**  
 前年度は松屋ベトナムの工場増加に伴う内装に関する支出があった。当年度は生産量増加によるミシンの用意などで支出があった。

**財務活動によるキャッシュ・フロー**  
 前年度はカーシートカバーの立ち上げや、工場増加に伴う内装代の支出により短期借入金が増加していたもの。

## 2019年度実績：連結貸借対照表

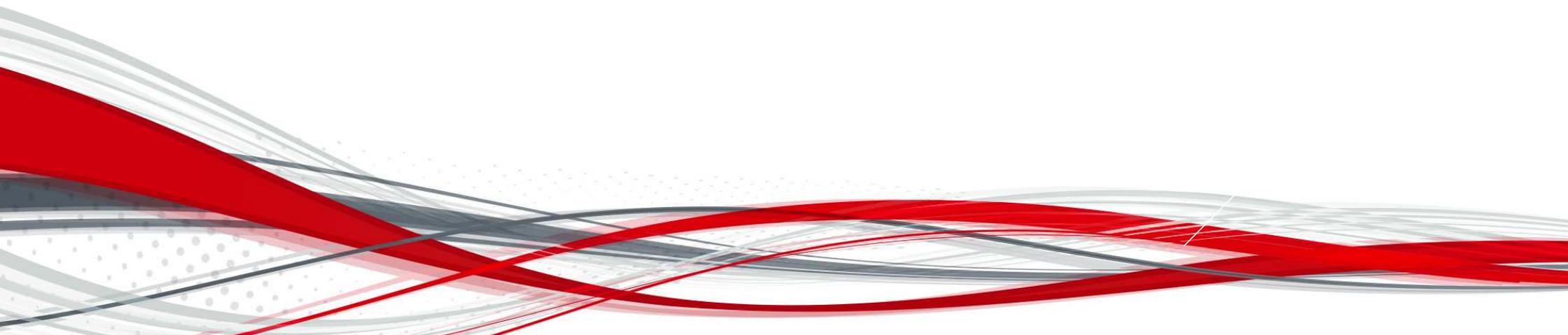
		2019.3 実績 (百万円)	2020.3 実績 (百万円)
資産	現金及び預金	565	768
	売上債権	824	1,105
	棚卸資産	1,874	1,945
	有形無形固定資産	557	966
	その他	269	267
	資産合計	4,091	5,054
負債	仕入債務	1,009	1,042
	借入金（長期含む）	907	1,045
	リース債務（長期含む）	64	562
	その他	333	402
	負債合計	2,313	3,051
	純資産	1,777	2,002
負債純資産合計		4,091	5,054

・キャッシュ・フローの良化により、  
**当座比率（137%→179%）**  
 は良化し、財務安全性は良化。

・当座貸越の極度額を増額し、今後の資金需要に機動的に対応できるよう体制の整備が完了。

・有形無形固定資産およびリース債務の増加は主にIFRS16号の適用によるもの。

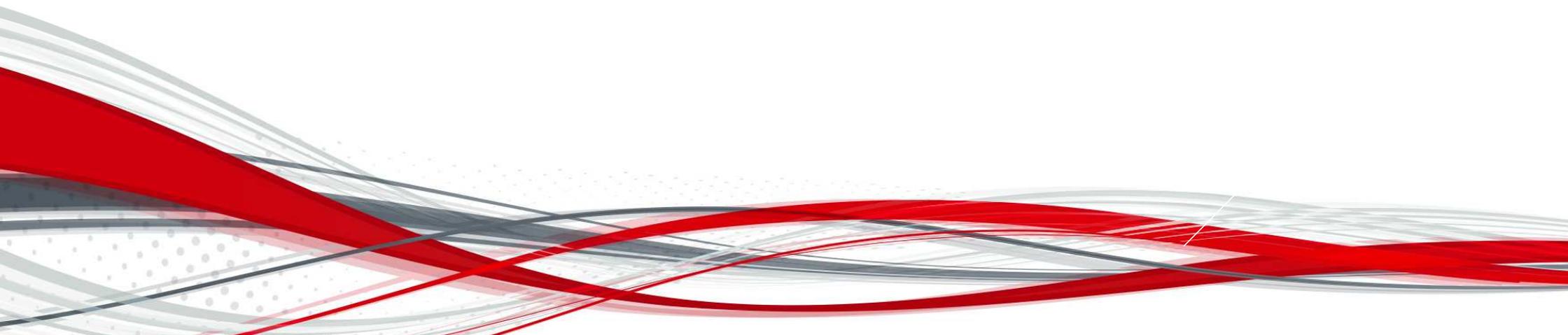
# 2020年度業績予想



## 2020年度予想

- 2020年度の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大により、見通しが不透明な状況にあり、未定といたします。
- 今後、見通しが明らかになり次第速やかに業績予想を開示いたします。
- 公募により調達した資金の用途については当初の用途通りに実行していく予定であります。
- AIロボット搭載の縫製自動機及びドローン用エアバッグの開発を実行していくのと同時に、アフターコロナ及び今後地球温暖化が進み凍土からのウイルスの拡散を見据え、メディカルヘルスケア関連の縫製自動機の開発・製造・販売及び縫製品の取引拡大を目指します。

# 今後の成長戦略



## 縫製自動機事業および縫製品事業の拡大

AI縫製ロボットを駆使した自動化ラインの構築を機に  
縫製自動機事業、縫製品事業それぞれの受注を拡大

### 新たな業界への拡大

Medical Healthcare

医療用縫合装置の開発

Anti Virus分野(防護服、ガウン)の縫製自動機及び縫製品

最先端ウェアラブル機器

Safety System

AI Sewing Robot

省力化ラインの推進

ドローン用エアバッグ



## 防護服、ガウンの製造

当社では新型コロナウイルス感染省の感染拡大を受けて、縫製自動機事業におけるレーザー裁断機、縫製品事業における防護服、アイソレーションガウンの受注生産などを開始しました。

ナースキャップ自動製造機



防護服サンプル画像（表）



防護服サンプル画像（裏）



## 次世代縫製自動機およびシステムの開発

- 株式上場により調達した資金を松屋ベトナムに出資を予定。
- Matsuya Innovation Centerでの新たなAI搭載縫製自動機及びドローン用エアバッグの開発に充当する。
- Anti Virus用バイオスーツ自動機ラインの開発も開発項目に入れていく。



防護服カット見本



## アフターコロナにおける産業形態の変化予想

### 1) あらゆる分野で産業用ロボット需要が増大していく。

きつい、汚い、危険作業に加えて、感染予防対策としてロボットの活用。

自国内生産対応のための自動化生産対応に

### 2) ロボットSI（ロボット・システムインテグレーター）需要の増加

生産現場へのロボット導入を設計する専門職の需要が急増する。

### 3) メディカルヘルスケア分野の拡大

医療用機器の自動化の拡大。

### 4) 海外委託生産先の見直し

ローコスト生産品については賃金高騰が激しい中国やタイでの生産を、安価かつ安全なベトナムでの生産委託需要が増えると予想される（ベトナムにおける新型コロナウイルス感染者は268名、死者0）すでに、数社から松屋ベトナムへの大口の移管商談を頂いており、今後数年にわたり、この傾向は続くものと見込んでおります。

## 今後の松屋R&Dの取組

- 1) ベトナムのイノベーションセンターと日本本社との協働設計で、ロボット主体の自動生産ライン開発を更に強化する。
- 2) イノベーションセンターにて優秀なロボットSIを多数育成して、他国への派遣業務を計画する。
- 3) 医療用縫合装置の自動化を推進していく。
- 4) エアバッグやカーシートメーカーからの松屋ベトナム移管依頼が増加してきており、積極的に進めていく。

(注意事項)

本資料には、将来の見通しに関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

今後、新しい情報や将来の出来事があった場合でも、当社は、これらの見通し情報の更新や修正を行う義務を負うものではありません。

(本資料に関するお問い合わせ)

株式会社松屋アールアンドディ IR担当

<http://www.matsuyard.com/>

Email : [matsuya@matsuyard.com](mailto:matsuya@matsuyard.com)